水栽

haku567

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト http://pdfnovels.net/

注意事項

は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ 囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範 テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。 この小説の著作権は小説の作者にあります。 このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ 小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。 そのため、作者また

【小説タイトル】

水栽

【作者名】

haku567

【あらすじ】

いつもと変わらぬ日常・ ・だが その日常を覆す事が起こってし

まう

悠は両親から引き継いだ偉大な力を人を守る為使おうとするが・

変わらぬ日常

言わば 最低な人間異様な力を持ち人を脅す自分は恵まれていない

「で・・」

今 自分の目の前に大きな建物が建っている

そう 学校

どうやら父がこの学校の学園長と昔からの長い付き合いらしい

そのお陰で自分はこの学校に編入できるのだ

両親は幼い頃 自分と妹を置いてこの世を去ってしまった

だから非常に生活がキツイ状態だ

学校が始まるから 妹に家で留守番をしてもらっている

少々心配にもなったが 自分は学校えと足を進めた

それにしても大きな学校だ

? 学校?・・違う 学園だな

っと・・学園に入る前に学園長に挨拶していくか

- 学園長室前-

「ここか・・」

そう言いつつ ドアを三回程ノックし、 入っていった

' 失礼します」

おぉ 来たな 大きくなったな」

と少々笑みを浮かべながら俺の頭をぐしゃぐしゃとする

お久しぶりです 何年ぶりか解りませんけど

「久しぶりだな・・」

と 少々沈黙が訪れる

「・・両親のこと・・」

「残念・・だったな・・」

ええ・・でも」

?

「自分は両親がいなくても生きていけるので」

と微笑を浮かべた

「そうか・・何かあったら私に言え 手助けになるかもしれ

「ありがとうございます」

とお辞儀をし 学園長室を後にしようとした時

「おっ・・そうだ これを持って行くといい.

と学園長が投げたものを受け取る

「これは・・?」

君の親父さんから預かっていたものだ きっと役に立つ

「?・・・ありがとうございます」

今度こそ 学園長室を後にした・・

゙あの目・・ あの子は力を持っている・・」

教室前

此処が・・自分の教室

ドアを開けようとしたときある事に気がつく

ドアの間に・・黒板消し・・

あれ? 此処は学園じゃないの?

一気に想像をぶち壊された

『その幻想をぶち壊してやる!』

あー・・はい ぶち壊されました

黒板消しを外し 中に入ろうとする

入ったとたんざわつきだした

「あの子が噂の子?・・」

「そう なんでも不思議な力を持っているらしいよ」

「興味心身なのだ・・」

何だ?力・・?

「静まれ!今日から入ってくる生徒だ」

日向悠と言います 未熟者ですがよろしくお願いします」

- 夕方-

終わった・・長かった・・今日一日

でも・・楽しそうな学校で良かった

•

帰りに彼方に何か買っていってやるか・・

とりあえず(スーパーへ向かうことにした

いい買い物をした

この日 玉ねぎが10個で50円でした

カレー でも作ってやるか・・

と 思いながら家へ向かった

| 家|

「ただいま~っと・・」

なにやらドタドタと足音を立てて近づいてくる

妹だ

大はしゃぎする彼方 可愛いもんだ 「お兄ちゃん 今日のご飯は何?」 「お兄ちゃん 今日のご飯は何?」 「お兄ちゃん 今日のご飯は何?」 「お兄ちゃんおかえり!」

PDF小説ネット発足にあたって

ビ対応 行し、 など 公開できるように 小説家になろうの子サイ 部を除きインター 最近では横書きの F小説ネッ の縦書き小説 の縦書き小説 います。 そん をイ を思う存分、 たのがこ な中、 ネッ 書籍も誕生しており、 タテ書き小説ネッ ト関連= 誰もが簡単にPDF形式 ネッ て誕生しました。 ト上で配布す 小説ネッ 横書きという考えが定着しよ てください。 トです。 既 は 2 0 存書籍 ケー の タ いう目的の基 07年、 の電子出版 小説を作成 小説が流 ンター

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。 http://ncode.syosetu.com/n5790z/

水栽

2011年12月19日11時55分発行